

- (4) 挿付前の苗畑消毒の効果は充分認められた。
- (5) リナロール挿の増殖は9月現在5042本の活着であつたが、10月のルース台風により多少被害があり、3月現在4314本得苗した。
- (6) 増殖用母木の社立方は挿木苗を二年掘置いて後移植し其後は穂木を取るべく年々台切するのが良成績のようである。

## 木麻黄の挿木について

宮崎大学農学部 林 武彦  
川野 繁 自 郎

### I. 緒 言

木麻黄は防風、防砂及び街路樹として台湾では盛んに造林され、且つ非常に効果を挙げているが、我が国では斯様な目的で造林されている例は余りない様である。

最近松が害虫のため大被害を蒙り、海岸防風林樹種として広川慶相が木麻黄を取上げてより漸く問題となり、これが適地と思はれる地方に於て苗木の養成が試みられるに至つた。然しながら木麻黄が南九州海岸の防風、防砂用樹種として適応するか否かは今後の調査研究によつて外はないであらう。

本樹は濠州の原産で50種近くあり、台湾に植栽されているものでも10種位あると云われ、其の内でも最も広く植栽されているのは「トクサバ木麻黄」の様であるが、我が国では何種が適するかは不明である。

木麻黄は普通種子により育苗されているが、挿木による育苗は不明である。剛ち先般日本林学会東北支部発行（昭和26年3月）の育苗研究会記録『挿木苗養成の基礎的研究』森藤清蔵氏外2氏の論文に『挿木の難易を示す系統樹——Ziegenspeck H 氏（1925年）の系統樹適用』に木麻黄科の挿木難易は不明と記載され、挿木による育苗は困難視されていたのである。然るに宮大農学部苗畑に生育せる13年生木麻黄（*Casuarina glauca*）（台湾産種子）の枝を昭和26年4月採取し挿木試験を行つた結果相当の活着を見、従来不明樹種とされていた木麻黄の挿木もこのに可能であることがわかつたので其結果の一部を報告することにした。

### II. 挿木の方法及び時季

挿木材料は前述13年生木麻黄の生長旺盛な2～3年生の枝で、直径1.3cm位以下のものを取り、長さ25～30cm位の挿穂とし、下部は

馬蹄型に切断し、即日苗畑に挿付けたのであるが、挿付方法は普通挿木の場合と同様で、挿付の深さは15cm内外としたが、実際挿穂下部の平根は3分の2位取除いた。

挿付後は時々除草したが、6月挿付の1部には日覆を施し又乾燥時には灌水をした。

挿付時季及び本数は第一表の如くである。

### III. 挿付時季と活着

第一表

挿付期日	4月5日	4月21日	6月15日
挿付本数	47本	70本	70本
活着本数	27本	25本	4本
活着率%	60%	36%	6%

上表の如く、供試材料が少なく正確を欠くとは思ふが、4月上旬に挿付けたものは最も活着が良く、6月中旬挿付のものは一度発芽するが発根せず、枯損するものが多く、日覆を施したものも良い結果は得られなかつた。

### III. 挿穂の太さと活着率

挿穂の太さは末口直径0.5cm~1.3cmのものと0.5cm以下のものに分けて試験した結果、活着率は第二表に示す如く、0.5cm以上のものは良好であるが、0.5cm以下のものは活着率が悪く、上長生長もよくなかつた。

第二表

末口直径	挿付本数	活着本数	活着率
0.5~1.3cm	74本	42本	45%
0.5cm以下	75本	16本	17%

尚6月挿付のものは末口直径1cm以上のもののみ活着したが、上長生長は良くなかつた。

### V. 活着と生長状態

木麻黄は挿付後20日位経過すると、幹より小枝を出し初め、この小枝中の幾本か幹となつて伸長するのであるが、初期は何れが幹となるか判定は困難である。

活着しないものは発芽しても小枝の伸長悪く後に枯死する。活着状態の良いものは其後の生長旺盛で、最も生長の良いもの(昭和26年10月調査)

は1.50に及び最も悪いもので3.6cm. 平均生長8.4cmであつた。

尚早期に挿したものの徑伸長良く、又直径の大なる挿穂徑生長状態も良い。

#### IV. 根の發育状態

4月上旬挿付けたもので活着したと思はれるものを6月8日に掘取つて見たところ、基部断面には *Callus* を形成してゐないが長さ7cm位の根を地下の各部分から本出してゐた。

10月28日に4月5日挿付けたものを掘取つて見たところ地下部16cmの全面に多数の細根を生じ、長根は下部と上部に発生してゐた。*Callus* は切断面全面を覆はず、切口の皮部と材部の接着点に僅かに生じてゐた。

#### V. 摘 要

1. 木麻黄の挿木は可能であるが、良好な活着は遅期がある。即ち4月上旬前後が挿付の最適期のようなのである。
2. 挿穂は末口直径0.5cm以上の枝が良い結果を得られた。
3. 発根は非常に良く、多くの細根と少数の長根を出し、又上長成長も良好であつた。

尚苗木は宮崎市青島海岸に移植中である。

## くすの混生林仕立試験について

日本専売公社試験場 西野 敷  
深田 登

### 一. 緒 言

くすのきは幼令木時代陰樹の傾向をおび、樹令の増加に伴つて陽樹になる特性を有し之が造林に當つては純林仕立とすべきか混生林仕立とすべきか又混生樹の選定等議論白出の状態にして未だ判然としないのであるが、本報告が其の一端を窺知する参考ともなれば幸である。

### 二. 供試材料

1. 場 所 鹿児島市坂元町試験場林地
2. 地 況 林 況

#### イ. 林 況

方位：一東北、傾斜：一平坦、温度：一中、深度：一深、土質及び土壌：一火山灰よりなる砂質壤土

#### ロ. 林 況

各区共樹令29年にして樹齢当初数年間下刈手入れを實施せるのみにして